

佳作 挨拶の力



エンフアムガラン ビャンバドラム
ENKH AMGALAN BYAMBADULAM

国 籍 モンゴル

職 種 機械検査

実習実施者 株式会社日ピス岩手

監理団体 九州ネット協同組合

私は小さい頃からものしずかで人とあまり話さない子供でした。父は私が海外に行くことを知ってとてもしんばいしていました。私に「モンゴル語でも人と上手に話せないのに、外国語で話せるのか？」と言って父は大きなため息をつきました。そして「とにかくあいさつをしっかりとしなさい」と言いました。日本での仕事の初日にみんなが「おはようございます」と言いました。モンゴルでは見知らぬ人にあいさつをしないので少し恥ずかしく感じましたが、とにかくあいさつをしました。しばらくは、私はちゃんとあいさつしていましたが私の声はどんどん小さくなっていった。ある朝、見知らぬ人が「おはようございます」と大きな声でドアをあけて入ってきました。私は彼がとても元気に見えていました。何回か彼とあいさつをかわした後自分がとても元気になっている気がしました。その人が「おはようございます」言ってくれることは今日もがんばりましようと言っているようで、はげみになりました。一言で人にエネルギーが伝わるって素敵じゃないですか？だから私はその人のようになろうと決心し、がんばって大きな声であいさつ

をしていました。するとおどろいたことに私にあいさつをしてくれる人が増え、私のことを知っている人が増え、話しかけてくれる人が増えました。私はうれしかったのですが彼のように人を元気にしてはいなかった。そして私が欠けていたものを見つけました。あいさつするとき歩みを止めて立ち止まる。それは他者へのけいいをしました。日本のあいさつはとても面白いです。今、私もそのようにさいぜんを尽くすようどりをしています。しかし、それはひじょうにむずかしいです。でも、他の人にも自分と同じように感じてもらいたいのだからもうあいさつを続けます。この力を感じさせてくれたその人にお礼をいいたいです。私の日本でのこれからのせいかつはとても楽しくなるでしょう。きっとすてきな人々にたくさん出会えると思います、楽しみにしています。